

## 電磁気学演習 第7回 (2005. 2. 7)

問1 真空中では Maxwell の方程式は以下の 4 つの基本方程式から成る。

$$\text{rot}\vec{B}(\vec{r}, t) = \mu_0 \left( \epsilon_0 \frac{\partial \vec{E}(\vec{r}, t)}{\partial t} + \vec{j}(\vec{r}, t) \right) \quad (1)$$

$$\text{rot}\vec{E}(\vec{r}, t) = -\frac{\partial \vec{B}(\vec{r}, t)}{\partial t} \quad (2)$$

$$\text{div}\vec{E}(\vec{r}, t) = \rho(\vec{r}, t) / \epsilon_0 \quad (3)$$

$$\text{div}\vec{B}(\vec{r}, t) = 0 \quad (4)$$

(1) 電荷も電流も存在しない空間における Maxwell 方程式を書き下せ。それらの式を、それぞれ (1') ~ (4') とする。

(2) (1') と (2') を用いて、磁束密度  $\vec{B}(\vec{r}, t)$  を消去した微分方程式(これを 5 式とする)を書け。

(3) 一般に、 $\text{rot}\text{rot}\vec{A} = \text{grad}(\text{div}\vec{A}) - \nabla^2 \vec{A}$  の関係 (i) が成り立つことを以下のように証明する。

~ を埋めよ。 $\vec{A} = (A_x, A_y, A_z)$  とすると、 $\text{div}\vec{A} =$  である。したがって、 $[\text{grad}(\text{div}\vec{A})]_x =$  となる。また、 $\nabla = (\partial/\partial x, \partial/\partial y, \partial/\partial z)$  だから、 $[\nabla^2 \vec{A}]_x = [(\vec{\nabla} \cdot \vec{\nabla})\vec{A}]_x =$  となる。よって、(i) の右辺の x 成分は となる。一方、 $(\text{rot}\vec{A})_x =$ 、 $(\text{rot}\vec{A})_y =$ 、 $(\text{rot}\vec{A})_z =$  だから、 $(\text{rot}\text{rot}\vec{A})_x =$  となり、 と一致する。

(4) (3) の (i) と (3') を用いて (5) 式を展開することにより、 $\nabla^2 \vec{E} = \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \vec{E}}{\partial t^2}$  (これを 6 式とする) となることを示せ。また、その x 成分を書き下せ。

(5)  $\vec{E} = (E_x, E_y, E_z)$  としたとき、 $E_x(\vec{r}, t) = E_{0x} \cos(\vec{k} \cdot \vec{r} - \omega t)$  (これを 7 式とする) は 6 式を満たすことを示せ。ここで、 $\vec{k} = (k_x, k_y, k_z)$  は波数ベクトルである。 $k^2 = k_x^2 + k_y^2 + k_z^2$  を  $\omega$  で表せ。

(6)  $\vec{k} = (0, 0, 1)$ 、 $E_{0x} = 1$ 、 $\omega = 1$  のとき、 $t = 0, \pi/4, \pi/2$  における  $E_x(\vec{r}, t)$  を横軸 z に対して 1 周期分グラフに描け。 $\omega = 2$  の場合のグラフも描け。 $\omega$  が 2 倍になると、波の進む速度は何倍になるか?

(7) 真空中を伝わる電磁波の速度は真空中の光速  $c$  に等しい。(5) と (6) の結果から類推して、光速を  $\epsilon_0$  と  $\mu_0$  を用いて表せ。

(8)  $E_x(\vec{r}, t) = E_{0x} \cos(\vec{k} \cdot \vec{r} - \omega t)$ 、 $E_y(\vec{r}, t) = E_{0y} \cos(\vec{k} \cdot \vec{r} - \omega t)$ 、 $E_z(\vec{r}, t) = E_{0z} \cos(\vec{k} \cdot \vec{r} - \omega t)$  のとき、これらを (3') に代入することにより、 $\vec{k}$  と  $\vec{E}_0 = (E_{0x}, E_{0y}, E_{0z})$  が直交することを示せ。

問2 Maxwell 方程式の解  $\vec{E}(\vec{r}, t) = \vec{E}_0 \cos(\vec{k} \cdot \vec{r} - \omega t)$  について具体的に考える。 $\vec{k} = (2, 0, 0)$  [rad/m] のとき以下の問に答えよ。ただし、真空の誘電率は  $\epsilon_0 = 8.85 \times 10^{-12}$  [C<sup>2</sup>N<sup>-1</sup>m<sup>-2</sup>]、真空の透磁率は  $\mu_0 = 1.26 \times 10^{-6}$  [kgmC<sup>-2</sup>] である。

(1)  $\vec{k}$  および  $\epsilon_0$ 、 $\mu_0$  から電磁波の角振動数  $\omega$  [rad/s] を求めよ。

(2) 電磁波の進む方向、速度 [m/s]、波長 [m] を求めよ。